

陳 情 文 書 表 (平成23年12月7日定例会提出)

陳情第21号

地球社会建設決議陳情書

平成23年11月22日受理

陳情者 横浜市中区本郷町3-287
荒 木 實

世界の前提が変われば、戦争のない世界が実現します。
その前提を変えるための決議を要請します。貴議会の義務であり、責任です。

(要旨)

約700カ所の自治体議会に、「地球防衛宣言及び戦争のない世界実現のための陳情書」を送付しました。ほとんどの議会より、議員配付したとの通知を受け取りました。およそ何万人という議員諸兄が目を通したことになります。しかしながら、具体的な動きはありません。この文書は「陳情というお願い」ではなく、「人類の生存という命題」が命じている絶対命令です。この絶対命令を拒絶することは、人類への敵対行為を意味します。人類生存の絶対条件として、核兵器廃絶の実現があります。この実現は、すべての核兵器の所在を明確にし、同時に解体し、その検証が完全に行われなければなりません。この作業ができるようにする前提が、この地球社会建設決議をすることです。わかりませんか。この決議は地球に生活するすべての市民の利益にかなうことであり、喜ばれることです。にもかかわらず、決議をしないのは、議員諸兄がその哲学、世界観、見識、思い等、トータルで腑抜けだからです。この決議が国にはできないことがなぜわからないか。この決議は市民の立場、したがって、市民の代表である議員諸兄しかできないことがわからないのは、思考が貧困だからです。民主主義の強力さを、「議会の重さ」を認識できていないのは、その見識が未熟であることを露呈しています。あり得ないと思われることが実現することは歴史が証明してきたことではありませんか。なさねばならないことをできない人間、わからねばならないことがわからない人間は腑抜けと言われても仕方ないのではないのでしょうか。議員諸兄の立場なら、戦争を滅ぼせるのです。この要請を一人で確信できなければ、日本平和学会などの学者、平和をテーマにしている団体、個人等と真剣に検討してください。陳情者が無名だと蔑視し、軽く考えないでください。傲慢にならないでください。「人類の生存という命題」に対する皆様方の真剣さの欠如は、歴史に名を刻む榮譽を足げにし、核廃絶の旗につばを吐き、平和都市宣言の看板に泥を塗っています。すべての人間が地球で共同生活をしているのが世界であり、この世界をより安全に、より豊かにするための出発点が、この地球社会建設決議です。この決議がオバマ氏・プーチン氏・中国共産党幹部・サウジ王室・イスラエル要人等に突きつけられたとき、とりわけオバマ氏がどのように対応するか、興味がわきませんか。地球社会建設決議がなされ、国家を超えて、世界じゅうの自治体議会と同様の決議がなされるようになれば、世界の前提が変わり、戦争のない世界、互

助の世界になります。まさに、人類の未来・生存への道です。わかりませんか。

すべての人間が地球で共同生活をしているのが世界であり、この共同体社会をより安全に、より豊かにしようとする思い、努力、行動こそ、市民としての人間の義務であり、責任である、とする決議

すべての人間で地球を守ろう、という前提の世界にしましょう。国家の生存競争が、「国を守るためなら地球を壊してもいい」という世界をもたらしています。「国を守る」という意識が戦争を、戦争状態を生み出していることがわかりませんか。国際社会では「国を守る」ことが絶対正当化されているために、「国を守る」ためという言葉がつけば、いかなる悪徳も許容されてきたこと、しまうことに気がつきませんか。この決議は、国を守る努力よりも、地球を守る努力が優先することを明らかにしていることがわかりませんか。「国を守る」という絶対責任は、国家に、常に戦争を想定させ、その対応を強要します。軍拡を絶対にとめられない国際社会の基本的性格です。日米戦争を想定してきた日本軍部があつた敗戦を招きました。「悪魔のシナリオ」が地獄を呼び込むのです。この悪魔のシナリオが現時点、世界に充満しているのです。現時点の世界は、すべての国家が軍備の増強拡大に全力を尽くしています。核拡散は必然の現象です。この現象を起こしている源は何か。「国を守る」という言葉に負けて、市民を、地球を守る意識を阻害されているからです。この見識を持たねばなりません。軍拡は必然で、戦争の一形態であり、地球を守る力を阻害し、地球を破壊している戦争犯罪です。戦争をなくさなければ地球を守れないことを強く認識すべきです。わかりませんか。

人道・人権は世界法である、という決議

この決議はすべての人間を守る基本法であることがわかりませんか。この決議はすべての人間にあまねく行き渡る基本法であることがわかりませんか。国際社会は自滅システムである、と強調してきました。現時点、世界は戦争状態であることをよく認識すべきです。今、日本地域に生活している市民全員が、北朝鮮の核の脅威にさらされ続けています。「人道・人権は世界法である」という決議は、邪悪な国家権力者たち、例えば、金正日を裁きの場に立たせるための道を開く決議です。彼を裁くことは北の核の脅威をなくすことを意味します。貴議会の責任範囲内の市民を北の核の脅威から守ることは、貴議会の義務・責任ではないのですか。その意識がないとすれば、恥ずべきことではないでしょうか。現時点の人類社会システムは、国家に「国を守る」という絶対責任を与えています。この絶対責任は、国家権力に「国民に犠牲を強要できる立場」を与えています。この立場は、国家権力に国民を支配する無制限の力の行使を正当づけています。金正日のような権力犯罪者が輩出するのは必然です。国家権力による非道・悲惨な現象は、戦争の一形態であり、戦争犯罪そのものです。わかりませんか。この決議をしないことは、北朝鮮の核の脅威を放置し、あなたに投票した市民を核兵器の脅威にさらすことを継続することです。わかりませんか。

地球防衛隊を創設しよう、という決議

国際社会という自滅システムの根源は、国家と軍隊が一体になっていることにあります。

軍人が「地球を守らねば」という意識を持つとき、軍隊は国家から離れ、より高い次元の軍人に進化します。職責が「地球を、社会を、市民を守るべき」地球防衛隊の軍人に進化します。人間を殺傷する道具を携帯する資格は、この職業人だけに与えられ、その使用は、裁判所命令によるものだけとなるでしょう。軍人という職業人は、地球を守るために一体化し、戦争はな

くなります。地球防衛隊の使命は崇高であり、その仕事は無限です。温暖化防止のための施策の先頭に立つ。原子力発電の建設・安全管理。水の管理。強大な権力出現阻止。難民・生活困窮者を組織し、生活援助、教育などのサポートで生活自立者に育成する。環境保全開発。地震・津波・火山爆発など災害救助・復興隊の創設。正当な活動をする地球防衛隊は自己の判断で「軍票」を発行する権限を持ち、この軍票は世界銀行が決済。などなど、地球防衛隊創設への構想が世界から噴出することをこの決議は促すのです。わかりませんか。今、フクシマの原発事故で、「脱原発」という主張が大手を振っています。人類の未来への視点がない連中の目先だけの「人類抹殺の主張」です。エネルギーの総量が地球での人間生存数量を決定するということがわからない連中の無見識な主張です。わかりますか。

空・陸・海・地下の空間、石油・鉱物等の資源は地球に現存するすべての人間の共有、という決議。

国家の領有権の主張も戦争の一形態であり、戦争犯罪です。暴力団の縄張り争いと何ら変わりはありません。国際社会の実体は「力」つまり「暴力」こそ、その根源です。「暴力は支配する力」の根源であり、「領有する力」の源泉です。その仕組みを今まで、市民たちが肯定してきたのです。「空間・資源の共有決議」は、この領有競争を無意味なものにし、争う意味をなくしてしまいます。この共有の物資・利権をすべての人間の人生の安全にいかにか寄与させるか、という社会技術を高めなければ、という努力目標を持たねばなりません。石油などの資源は地球防衛隊運営の基礎財源にするべきです。わかりますか。

内政干渉は地球市民の基本的権利、という決議

国際社会の「内政不干渉の原則」は、共同社会を否定する論理です。一人が、特定集団が勝手なことをしているのに、その行為を告発できない、などあり得ない考えです。まるで、暴力団が白昼堂々と悪さをしても文句言うなど威嚇しているのと同じです。「アメリカの超軍事力は社会の公平の原則を侵している」「中国の共産党一党独裁は、民主主義を侵し、市民の基本的人権を侵している」「パレスチナに対し、世界は謝罪すべき」という決議は、「内政干渉の正当性を証明し、暴力の恫喝の不当性を浮き彫りにする決議です。わかりませんか。

生存の基本的権利である人間の尊厳を守るのは民主社会主義社会である、という決議

すべての人間の基本的権利を守り、具現できるのは民主主義しかありません。すべての人間の人生を最低限、保障するには社会主義しかありません。共産主義は民主主義と相入れません。共産主義は、過去において、それこそ膨大な市民を殺りくしてきた事実を記録しています。共産主義は、管理する側と管理される側に分かれ、管理する側の声を「神の声」にして社会秩序を維持しなければならず、その「神の声」に不適とされる市民は排除するしかない、という性格を持ち、膨大な市民を殺りくすることで排除してきました。共産主義は民主主義と共存することは不可能です。市民という立場の人間にとって、共産主義の主張は、自己の抹殺につながる恐怖の主張であることを歴史が明らかにしています。わかりませんか。

今まで、民主主義が国家主権に負けてきた、という意味がわかりますか。「国を守るため」という国際社会での絶対正義に負けて、市民の権利・尊厳が犠牲になってきたことがわかりますか。地球を守るためには、強大な権力・暴力の発生を防止しなければならないことがわかりますか。強大な権力・暴力が発生すれば、その反動勢力が発生し、その衝突が地球を破壊します。

社会の主権者は市民であり、その確立のために民主主義技術を高めよう、という決議

現時点の民主主義は、国際社会の論理である「国家主権」の思考に負けており、「市民一人一人の尊厳の重要性」よりも、「国を守る」という重要性が優先しています。この優先が、世界を滅ぼそうとしていることがわかりますか。社会の目的・責任は構成員の市民の人生を守ることにあり、人道・人権の理念が生み出した民主主義の社会運営がその責任を果たすことは知性ある市民の共通認識です。しかしながら、現時点の民主主義は、未熟であることをさまざまな現象で露呈しています。政党政治は健全な社会運営よりも権力闘争を優先させ、政治力を弱体化させています。アメリカはユダヤ人ロビー活動によって、イスラエル絶対ひいき政策をとり、9・11テロを招きました。民主主義の社会技術を高め、より高いレベルの政治、政治家の質を高める、等の民主主義社会の目標を持ち、そのための社会技術を開発しなければ、という意識を持たねばなりません。「社会技術」という意味がわかりますか。

地球社会の柱は、最高意思決定機関の創設である、という決議

地球共同体社会は、一日も早く、最高意思決定機関を持たねばなりません。世界を500万人前後の自治体に区分し、その自治体を基本単位として地球共同体社会を構成するべきと提案します。その自治体の代表者1,400人が一堂に集えば、70億人の意思決定機関になり得ます。民主主義が効率よく機能する適正規模があると考えています。スイス・オランダ・デンマーク・北欧諸国等は高いレベルの社会を構築しています。規模が大きくなり過ぎると民主主義効率は低下し、さまざまな悪徳現象が発生してきます。民主主義を市民のためのものにするには、より高い社会技術をつくり出していかねばならない、という意識を持たねばならないことがわかりますか。

より安全でより豊かな地球社会建設にはさらなる社会技術の向上が必要である、という決議

地球という空間。人間を含め生命が生存できる唯一の環境空間である地球で、生きるための手段方法を創出するには、民主主義体制で、市民一人一人の自由な発想こそ、その根幹です。「未来をつくる」。すべての人間が参加して、初めてできることです、1人が、少数が、社会を運営し、発展させるなどということは妄想です。共産主義の歴史が明らかにしたように、まさに妄想でした。「一人一人が、それぞれが、自分の人生をよくするのは、みんなの人生を向上させることによってともに向上することだ、という正当な思いを共有することだ」と気がつけば、地球社会の建設は盤石になり、安全で豊かな世界が実現するでしょう。その目標を実現するためには「社会技術の開発・向上」が必要です。わかりますか。

環境保全開発計画。地球社会組織の形成・人事。人口安定のための理念。移動の要請・制限。文化・宗教・生活習慣の尊重・尊敬。・・・社会技術開発の要請は無限です。

これらの決議が世界に、そして一人一人の市民に何をもたらすか、見えますか。

この地球社会建設決議が、クロフネと同様、時代を変える役割を果たすことが見えませんか。この決議を拒絶する人間は、「人類への敵対者」の立場になるだけです。わかりますか。